

(1) 研究課題名 精神障害者の利用満足度からみる利用者の期待する日中活動系障害福祉サービス体系とは

社会福祉学科 石田 賢哉

背景

- 日本の障害福祉制度のパラダイムシフト(2006年)
- 利用者の意思や希望を尊重する仕組みへ

目的

利用者の期待するサービス体系の検証
特に、一般就労が困難な精神障害者のサービス利用満足度の要因に着目

研究内容・方法

2005年に実施した調査結果と2015年に実施した調査結果の比較
特定の地域(横浜市)に限定した横断調査
アンケートによる利用満足度調査の実施
統計的な手法による分析



- 日中活動系事業所の利用者層の変化(若年層の減少、長期利用者層の増加・高齢化、特に40代50代層の増加、利用者の疾患・障害の多様化(発達障害の増加)、就労意識の減少)
- 満足度の変化(2005年よりも2015年の満足度が低くなってきている)

研究成果

- 利用者と利用目的をきちんと話し合いながら個別支援計画を作成することがさらに重要(collaborative approach) ⇒利用目的が年齢等によってかなり異なっている。
利用目的について利用者と支援者に合意がなければ満足度の低下という結果になる。
- 高齢層の利用者:今後も利用し続けたい意向が非常に強い。
⇒日中系サービス事業所=居場所的役割⇒介護保険との連携の必要性も。
- 権利意識の高まりがサービス評価について厳しくなった可能性も否定できない(不満の顕在化)。